



写真7 自然金

中で世界的に有名な輝安鉱が美しい巨晶を見せています。

岩石では、国内の代表的な標本約 100 点を展示。褶曲して出来た美しい模様の紅れん石石英片岩(高知県汗見川産)などが見られます。

化石では、象、マンモス、貝、魚、虫などの動物化石と、シダ類や双子葉植物などの植物の化石約 400 点が年

代別(古生代、中生代及び新生代)に分類して展示されています。更に、植物化石の出来るまでが、イラストによって説明されています。

## 20. 今吉鉱物標本

故今吉隆治氏(1905~1984)が寄贈して下さった鉱物コレクション 1 万点の中の一部を展示してあります。みごとな日本式双晶を示す石英や、輝沸石、螢石等々、種類や産地も多く貴重な標本です。

### (あとかぎ)

今春で退職された、瀧澤朝代さんの作られた「見学の手引」は、標本館を訪れる人や、見学の下見などにこられる先生がたに大変喜ばれており、当標本館の広報活動にも大いに役立っております。

今回、この原稿を書くに当たり、「見学の手引」をベースにさせていただきました。そこに、子供達の見学時のエピソードなどを加えた形で書き上げたものです。

---

OZAWA Taiko (1990): A short tour of the Geological Museum.

---

<受付: 1990年5月29日>

## お知らせ

### 地質調査所研究講演会『地震地質学は社会にどのように貢献できるか?』

開催場所: 三会堂ビル石垣記念ホール

開催期日: 1990年9月10日

- |             |                                |                        |
|-------------|--------------------------------|------------------------|
| 13:00—13:20 | 開会の挨拶                          | 地質調査所 所長 石原 舜三         |
| 13:20—14:00 | 「地震地質学から生まれた地震評価法—固有地震モデルについて」 | 原子力工学試験センター 特別顧問 垣見 俊弘 |
| 14:00—14:30 | 「地質調査所における地震地質学」               | 環境地質部地震地質課長 衣笠 善博      |
| 14:30—15:00 | 「古地震: なぜ古地震を研究するのか」            | 近畿・中部地質センター主研 寒川 旭     |
| 15:10—15:40 | 「首都圏の基盤構造—直下型地震や地震災害と関連して—」    | 環境地質部地震物性課長 長谷川 功      |
| 15:40—16:20 | 「地震地質学に期待するもの、社会から、業界から」       | 全国地質調査業協会連合会相談役 深田 淳夫  |
| 16:20—16:50 | 「地震地質学の今後の展望」                  | 環境地質部地震地質課主研 山崎 晴雄     |
| 16:50—17:00 | 閉会挨拶                           | 環境地質部長 小出 仁            |
- 連絡先: 地質調査所企画室 高橋 (Tel 0298-54-3572, 3574; Fax 0298-54-3571)